

平成 26 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273300317		
法人名	株式会社 ユニマットそよ風		
事業所名	四街道ケアセンターそよ風(いずみユニット)		
所在地	〒284-0012 千葉県四街道市物井1596-4		
自己評価作成日	平成26年2月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成26年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

オープン当初から、「安全で楽しく家庭的に」というスローガンを掲げております。入居者1人1人の気持ちに寄り添い、ご本人様の立場に立ち支援することで、入居者様に合った生活を送れるように努めています。また、入居者様の健康管理に関しても、訪問診療や歯科など取り入れ連携を図っています。それ以外にも、健康維持に繋がるよう、便秘防止のために週3回寒天ゼリーの提供を行ったり、余暇の時間を使い体操や室内ウォーキングなど、入居者様の体調を考慮しつつ実施しています。入居者様やご家族様の要望を取り入れつつ、外出の機会を設け、毎月行事を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理	会社のスローガンでもあるが、GHならではの「安全で楽しく家庭的に」という独自のス		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交	自治会からの夏祭りや近隣の小学校の行事など、お誘いの声をかけて下さったり、幼稚園からの招待など交流を図っております。また、地域の一人として学校生徒の社会見学や課外授業を		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php	ボランティアや見学、教育機関の実習の受け入れを行っています。また、地域の方にも事業所の		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、	評価結果の報告、現状報告・意見交換・質疑応答など行っています。また、その都度		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業	各事業所の研修会にも積極的に参加しております。また、県の主催のオリエンター		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外主催の研修に必ず参加し、事業所でも身体拘束廃止委員を設けております。毎月の全体会議で事案を挙げ、意見交換など行い、職員全体で身体拘束をしないケアに取り組んでおります。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者はもちろんのこと、他職員も身体拘束廃止研修を受講しており、研修内容についてもGH会議や全体会議で取り上げて学んでいます。また、マニュアルも作成しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外部主催の研修に参加し、制度について学び、会議などで発表を行い情報を共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、全て読み上げて説明をしてから同意を得ています。又、ご本人様や家族からの質問や改定の際には、書面や口答にて分かりやすく納得して頂けるまで詳しく説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、入居者様、家族の意見や思いを吸い上げています。会議で参加出来ない方などは、面会に来られた際に面会カードを用意しており、そこに意見や要望など記入して頂けるよう欄を設けています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などももちろんの事、個別や朝礼など職員の意見や提案を聞いています。運営管理からのみではなく、意見交換が必要な場合は、その都度機会を持ち意見を取り入れるようにしています。		
12		○就業環境の整備u 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、随時個人面談を実施し、職員個々の悩みや意思を確認、ベースアップ、課題を把握し解決に努めています。日頃より交流やコミュニケーションを図るなど職場環境の充実に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員には、一定期間、管理者又は経験豊富な職員がつき育成指導しています。また月1回の勉強会を開き学ぶ機会を設けています。育成も計画を立て、研修シートを設け進捗状況を確認するとともに、随時研修も受けるよう進め、参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所と、訪問や研修など行い交流を深め、情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの段階からなるべく本人様の状況把握に努めております。入居前に一度施設見学に来て頂いたり自宅訪問などを行い、本人様やご家族様とコミュニケーションを図ることで、情報収集しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居同時に家族の要望や困っている事など、親身になって耳を傾け一つひとつの要望に添い、安心して頂けるよう説明することで信頼関係に努めています。また、今後のケアに関するケアプランを作成し同意を得て、渡しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの際、迅速な対応が必要と判断した場合、適宜他サービス利用のアドバイスや進め方なども伝えるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中での職員と入居者様の絆にとられない心の交流を大切にしています。生活の豆知識や昔ならではのやり方、習慣などを通して学んだり支え合ったりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年4回の運営推進会議、年に2回家族会を設け、食事会など交流を促しています。また、行事や外出レクの際には、お知らせと一緒に参加して頂いたり、足を運んで頂く機会やきっかけを増やしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族様から特に禁止がない場合、訪問者は歓迎しています。ご本人様が、訪問者を思い出せない場合は職員が同席するなどし、支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の会話には、さりげなく交わりをもち、他の入居者様が孤立しないように配慮し環境作りしています。また、行事やレクリエーション、日常生活を通して信頼関係を築けるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や医療系介護施設に転居された入居者様やご家族様ともに関わりを持っています。お見舞いへ行ったり、ご家族様からの報告があるなど、良いお付き合いをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での関わり合いから、入居者様それぞれの意向・希望の把握に努めています。意思疎通が困難な方には、ご本人様の表情やしぐさなどを見ることや、それまでの生活歴や、家族にも相談し検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のご本人様・家族からの聞き取りや、入居後もご本人様、家族と良く話し、普段の会話などからも把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを理解し、総合的に把握しています。会話や行動なども申し送りし、些細な変化をも捉えるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様や家族との関わりの中で思いやりや意見を聞き、アセスメント・職員の意見交換・報告の機会作り、担当者会議を通して、介護計画に反映できるようにしています。また、毎月モニタリング、評価をしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況や生活の様子、普段と違う言動など個別ケース記録として記録しています。また、ユニットごとの申し送りノートなどを使用し、いつでも職員が確認できるようにしており、情報共有の徹底を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科、理美容、医療、リハビリなど利用しているが、ご本人様や家族の希望によっては外の床屋に行ったり、併設のデイサービスとの連携で、一緒に行事を行なっているなど、柔軟な支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校からの児童の訪問や、月ごとの行事に招待や、自治会主催の地域のお祭りへの参加など、協力しながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時の同意の上、ご本人様はもちろん家族とも連携を取り、訪問医療や協力病院とも良い関係を維持しています。ただ、希望の病院がある場合は、そちらを優先しています。適切かつ安心した医療を受けられるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問医療もちろんの事、センター内の看護師との連携が充分に取れており、日常での健康管理や医療的な相談をしながら、支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに行った際に家族や医師や看護師などと、情報交換や相談を図っています。早期退院を目指し、医師からの説明の際には、なるべく家族に同席をして頂くよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族や訪問診療、協力病院との面談や話し合いを充分に行い、それぞれが納得できる方針を打ち出し、頻繁な連絡、報告、相談の上、一番良いと思われる支援をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故の際、職員は緊急マニュアルに沿って対応しています。また、訪問医療との連携を図り、素早く、行動できるようにしています。また、救命救急講習も順番に受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと年2回避難訓練を行っており、入居者も参加しております。夜間を想定した、避難訓練も行っています。また、近隣の住民に避難訓練のお知らせをしていますが、合同訓練には至っておりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で、ご本人の尊厳を損なう情報は、会話にしないなどの配慮をしています。記録など個人情報保護法に則り、取り扱っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の好きな事や得意なこと、したい事など行えるよう働きかけています。また、安全を確保した環境の上での行動の自由を制限しない言葉をかけるなど、ご本人様のペースで過ごして頂けるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側の都合に無理やり合わせるのではなく、一人ひとりの生活リズムを大切にし、できるだけその方の想いや状況を配慮する支援を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え等、その方の意向や相談にのりながら決めていきます。また、ご自分で意思疎通が困難な方は、本人様の好みなど情報を家族から聞き対応しています。毎月3回の訪問理美容など利用し一人ひとりの希望のおしゃれを楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に合わせて、調理、盛り付けなどに関わって頂いています。また、誕生日などには、ご本人様の好きなもの、リクエストメニューを用意するなど、希望をできるだけ取り入れるようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に毎日3食の食事は、栄養士による、バランスの取れた献立をもとに提供しています。また、食事、水分量のチェック表を作り一人ひとりの状況を把握し支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいや歯磨きを行なっています。また、ご本人に任せたままでなく、磨きづらい所など声かけや介助を行い清潔を保持しています。必要に応じて、訪問歯科と連携し対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を用いて排泄パターンを把握し、個々のパターン、習慣合わせて声掛けや誘導をしています。声かけや交換の際にも、自尊心を傷つけないよう配慮し、排泄の支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄リズムの把握に努めています。また、コントロールが必要な場合は、医師の指示のもと行なっております。毎日体操を行う、朝牛乳を飲んで頂くことや、週3回の寒天ゼリーなど自然排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂は、毎日沸かしており入浴の希望を伺い安心して入浴できるような声かけや環境作り、対応の工夫をしています。1階の大浴場にて、温泉気分を味わって頂くこともあります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は、特に定めていないので、状況に応じその方の生活習慣を尊重したペースで休んで頂いています。また、体操や散歩、レクリエーションなど、生活のメリハリを作り安眠策をとっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は常に入居者様の薬を把握し、増減や変更についても把握しています。また、内服薬によって変化や異常があった場合は、家族と医師や看護師などの医療機関に相談し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や得意なものを理解、把握し生活の中で出来ることを見出し現実できるよう、環境作りや場所を提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとのドライブやイベントなど、外出の機会を毎月計画しています。外出の希望があれば、職員が同行するようにしています。また、行事などの際には、ご家族にも連絡し連携を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、現金はお預かりしていますが、買い物の際には、ご本人様に支払って頂くなど、状況に応じて支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中お見舞いなど、毎年書いて頂いています。電話は、家族の意向を伺って行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気によって照明を弱めたり、カーテンで調整しています。テレビなどは、音量をほぼ一定に保っています。職員の声のトーンに注意しゆっくりと話しをするようにしています。毎月のカレンダーは、入居者様と一緒に考えて製作しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が各居室を気軽に行き来しています。また、リビングだけではなく、洗面台前やエレベーターホールなどにもソファや椅子を置くことで、入居者様が、思い思いの場所で過ごせるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、使い慣れたものを用意して頂いております。家具などもご本人様が、使っていたものをお持ち頂いております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや手すり、キッチン等低めに設計しています。入居者様が使いやすいようになり、安全と自立に配慮しています。また、居室は、同じ造りのため表札を一人ひとりわかりやすく工夫しています。		